

社団法人 地盤工学会
地盤調査規格・基準委員会
平成23年度第2回 議事録

日時	平成23年 9月12日 (水) 14:00~17:30			場所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫	○	幹事 (岩)	長田 昌彦	○	幹事 (土)	利藤 房男	○
委員	浅古 勝久	○	WG1委員	松島 潤	○	WG1委員	斉藤 秀樹	×
WG2委員	木村 英雄	○	WG2委員	水谷 崇亮	○	WG3委員	井尻 裕二	×
WG3委員	小松 満	○	WG4委員	平林 弘	○	WG5委員	小早川 博亮	○
WG5委員	山本 裕司	○	WG6委員	中村 洋丈	○	WG7委員	浅井 健一	×
WG7委員	藤崎 勝利	○	WG8委員	日比 義彦	○	WG8委員	藤根 拓	○
WG10委員	太田 英将	○						

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席 △：未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H23-5-16)	・ 資料23-2-1
ワーキング5	・ 改定基準に対する意見 (基準部会より)	・ 資料23-2-2
ワーキング1~10	・ 解説	・ 資料23-2-3 WG1~WG10
基準部会からの依頼	・ 規格・基準の英文に関して	・ 資料23-2-4
地盤工学会誌への投稿原稿	・ WG2, 3, 4, 6, 7, 8関連基準	・ 資料23-2-5
基準部会	・ 平成23年度 第2回基準部会報告	・ 資料23-2-6
JIS改正	・ 国土交通省提出資料の確認	・ 資料23-2-7
会員からの質問		・ 資料23-2-8
進捗状況		・ 参考資料

審議事項

(1) 前回議事録確認 (資料23-2-1)

・ 特に意見なし

(2) ワーキング5 改定基準に対する意見 (基準部会より) に関して (資料23-2-2)

・ 特に修正等の意見なし→**9/26基準部再審議**

(3) ワーキング1~10 解説 (資料23-2-3 WG1~10)

【WG1】

・ 他の章の図、表を引用する場合の図番号、表番号の付けかたは、執筆要領のとおりとする。**【全WG共通】**

・ 表-1.1、空欄は記載ミスと勘違いされる可能性があるため、何か記号等記載する。対応深さの「◎、○等」は会員から質問が来る可能性があるため、「幅で示す」、「注でコメントを入れる」等、記載方法の工夫が必要。

【WG2】

・ 解説の進捗は約50%で、次回の委員会に提出する予定。

・ 環境調査のボーリング、サンプリングはWG8で記載するが、WG2でも一覧表などで、環境関係のボーリング、サンプリングを含めた全容が分かるものを作成する。記載内容は、WG2とWG8で要調整。

- ・WG2からWG8への情報提供依頼に関して→環境関係のISO, CENの動きはあるが、今回の改正には間に合わないが、可能な限り解説で記載する。
- ・軟岩等のサンプリングシンポジウム（H12）以降の動向の情報提供依頼に関して→地盤工学会誌に特集が出ていた。小早川委員が確認し連絡する。
- ・水圧式サンプラーの現行基準が実態とあっていないことに対し、基準を緩和した案に関し、承認した。基準は既に基準部会に提出済であるので、学会誌に公示後会員からの指摘事項として取り扱う。

【WG3】

- ・解説の目次は、同種の調査法をひとまとめに1章とした。結果の利用は章毎に最後にまとめて記載することとした。
- ・1章に地下水調査関連のISOの動向を記載することとした。地下水調査のISOは、基準と1:1に対応していないのでまとめて記述することとした。WG2, 3は同じISOが関係している。WG4, 5に関しては、基準毎にISOと1:1に対応しているので、基準毎に記載する。 **WG2,3,4,5に関連**

- ・「結果の評価」は、通常は「解釈」としている。過去の青本では「整理、解釈、評価」が用いられているので、どの表現が最もよいか再検討が必要。
- ・14pの表1.5、ISO規格、JGS基準の構成が違っているので、修正が必要。
- ・地盤調査の方法と解説を参照する場合は、最新版を参照しても良い。
- ・書式で第2細目以降、第3細目、第4細目の表記に関し、赤本等を確認して、幹事の方から記載方法を連絡する。 **全WG共通**

- ・データシートは各WGで原案を作成して、表記法委員会にまわし確認する。前回のデータシートの電子ファイルは、事務局に確認し幹事から各WGに送付する。 **全WG共通**

- ・孔内流向流速測定の見準化は、試験法自体を見準化することは困難で、ボーリング孔のあけ方等に限定される可能性がある。

【WG4】

- ・ポータブルコーンに関し、10p、5.4.1、(2)及び図6.5.3に「機械式コーン」となっている部分は、機械式コーンのうちマントルコーンタイプであるので、修正が必要。
- ・動的コーン貫入試験方法見準化WG設立趣意書は、「国際動向」、「普及しているか」、「十分な情報が集まっているか」が確認できたので承認する。 → **9/26見準部審議**

【WG5】

- ・今回は審議資料なし

【WG6】

- ・解説は最終確認の段階。
- ・データシートで、密度が前回青本では小数点以下2桁であったが、今回は3桁になっている理由は。→室内の締固め試験に合わせた事による。RIのデータシートは、名称、校正が特定の機器のものとなっているので、表現方法の再検討が必要。（名称**、吹出しで一例であることを明記する等）

【WG7】

- ・今回は審議資料なし

【WG8】

- ・複数の見準に共通する事項は、読者の読みやすさを最優先して、「同様なものをまとめる」、「全て記載する」等、再検討が必要。 **全WG共通**

- ・土中ガス試料の採取方法3件に共通する数種類の表はまとめてしまった方が良いとの意見があるので、再検討が必要。

【WG9】

- ・目次構成が示された。特に修正等の意見は無し。

【WG10】

- ・東日本大震災までの災害は、解説に記載する。

【その他】

- ・解説のページ数を確認する必要があるので、各WGから幹事宛、9/20までに連絡する。幹事のほうで取りまと

め、ページ数削減が必要か事務局に確認する。**全WG共通**

・青本の巻末に委員会、ワーキングメンバーは全て記載する。（前回青本以降のメンバーで、小冊子で掲載したメンバーも含む）**全WG共通**

(4) 基準部会からの依頼（企画・基準の英文に関して）（資料22-2-4）

・古い基準の英文配布に関しては、以下の2意見があることを基準部に報告する。

■ ニーズはあると思うので無料公開しても良い。ただし、1ページ目に古い基準で、最新のものが別途あることを明記する。

■ 最新が無いと海外で太刀打ち出来ない。現状との違いが分からないので、かえって混乱する。

・基準の英文は理事会を経ていないので、正式基準ではない。

・今回改訂する基準の英文は一括外注して、あがってきた英文を委員会、WGで確認することとして欲しい。

・対応ISOがある規格・基準では、ISOを日本語訳にするのに非常に手間がかかった。今後は、学会の方で、必要なISOの日本語訳をお願いしたい。

報告事項

(1) 地盤工学会誌への投稿原稿（資料22-2-5）

・ゲラが上がった段階で、各WGで校正作業をお願いする。その段階が最終の手直し時期となる。地盤工学会誌11月号に掲載される予定。**全WG共通**

(2) 基準部会報告（資料23-2-6）

・特に意見なし

(3) JIS改正（国土交通省提出資料の確認）（資料22-2-7）

・各WGにファイルを送るので、「制定・改正の必要性及び期待効果」、「規定項目又は改正点」を記載し、幹事に9/26までに提出する。**WG4,5,6に関連**

・JIS改正6件は、年内あるいは年明けに、「経済産業省 日本工業標準調査会標準部会 土木技術専門委員会」での審議となる予定なので、原則下記関係者が参加することとする。

■ 谷委員長、平林委員、伊集院WG委員、山本委員、中村委員

(4) 会員からの意見（資料22-2-8）

・16pの質問へは、「今回の青本改訂で修正する」旨回答する。

(5) 進捗状況（参考資料）

・特に意見なし